夕刊
磐城新聞
十月八日發行
發行所 磐城新聞合資會社
(日曜祭日翌日休刊)
振替東京一〇八五五六番

天氣豫報 小名濱測候所發表
今晩は北東の風雨
明日は北東の風雨
後曇

秋夜漫筆 四
青木淳

自分の作つた卽製のうたが三つも選に入つたので吃驚した

何といふ靜かなのんびりした會であつたか、俳句をやる人はみんな靜かでおとなしいと感じた事であつた しかし、自分には、そんな俳趣にひたつてゐる暇がない。毎日〳〵、あくせくソロバンの世界に頭を入れてゐるのだ

自分も、先年立命館に文學科が出來たので、老學生として入學し、そこを出てから多少の片鱗をのぞく事が出來たが、漢文に趣味をもつやうになり、やはらかなものにふれる事がないので、たゞ自分の仲間に若いものが、すく〳〵と育つて行くのを見て悦に入つてゐるわけである

現在自分はほんとに、多忙で自分の時といふものがない。それで本など少しもよむ暇もない。一昨年平で小田吉次先生を訪問したとき『君逹はキングをよんでゐるか、キングはためになる事が書いてあるぞ』といはれた言葉が妙に頭にのこつてゐる、前からではあるが毎月キングを買ひ、これだけはよんでゐる。外に何もよんでゐない。磐新が毎朝配逹されると洋服のポケットに入れ、會社に行く途中岡崎公園で、歩るき乍らポケットから取り出してよむが日課のやうになつてゐるよむものはそれだけであるゐから本を讀みたくなるこんなんでよいであらうか詳しくは考へてみよう(十月二日朝記)

可愛い兵隊さん
福田君夫

トテトテトテ空高く
おもちやのラッパを先頭に
足並そろへて胸はつて
可愛い兵隊 一聯隊
紙でこさへた鐵かぶと
皆のはお菓子の空箱だ
小さな鐵砲肩にかけ
可愛い兵隊 一聯隊
お木馬に乘るのは大將さん
銀紙光るよ日本刀
ポチもならんでそら進め
可愛い兵隊 一聯隊

月
島田忠夫

○九月十三日深更、所用ありて上毛、沼田に赴く (上)

○用もちて夜の峽驛におりたてり我が見おばゆる山に照る月
○谷がはの瀨の音ちかし肌さむき麻の單衣をわがかこつかな
○自動車の灯に穗すすきの光る見ゆ月はかたぶく月夜野のはら

本社後援 野麥社秋の短歌會

日時 來十日午前十時
場所 マルトモホール
會費 三十錢
兼題 『葉』『聲』各二首 時局に因めるもの一首
詠草 八日締切
送先 マルトモ内野麥編輯部

小島君從滿洲歸 賦贈
珠雲 小野務平

風持勁節典宏才
遍歷中京北滿隈
豈帝觀風兼察俗
究探貿易奐儀來

10月9日
△西小說家セルバンテス生る(一、五四七)△ユーゴースラヴィヤ國王御遭難(一九三四)

講談 悲戀 髑髏組(どくろぐみ) (14)
林杢兵衛作 金子士郎畫
闘入醜闘 (三)

倉持は、諸足を踏ん張つて居合腰となつた

『ふッよ、御親切に恐縮千萬だが島宗刑部、まだ世間になさねばならぬ事が澤山御座る、失禮ながら馬鹿代官の理不盡な刄に倒れては先祖へ對しても申譯なき次第、勝手ながらお斷りするまで』

『斷る?、然らば汝刄向ふ氣か』

『止むを得ぬ場合は拙者は生命をとらるゝに甘んじても此の朱鞘の祖先より傳わる彥四郎貞宗が承知せぬ、相手が代官であらうと、はたまた奉行であらうと、大名であらうと、理を非に曲げる惡德不善の輩であれば。斷じて見逃さない此の貞宗

强いて事あるを好まぬが。御所望とあらば素浪人の刀業、御賞玩に供さうか』

右手で、大刀の柄をトン〳〵と叩いて、流し眼に莞爾とする刑部

『詰らぬ世迷言、其處動くな』

叫ぶと同時に拙劣ながら拔き打ちの一刀、刑部の左り肩から袈裟がけにねらひ落すを、頭上柄頭でガッキと止めながら片膝を立てた刑部の、亂れぬ水のやうな澄んだ面

『はてさて、生命を粗末にする馬鹿代官だ、大儀ながら相手になるか』

扉外では、まるで緣日ののぞきでも見るやうに、二つ尻を並べて隙を見する勘太と小六が膽を冷した

『あッ危ねえ?』

と、勘太

『馬鹿野郎、靜かにしろい』

ど、抑へつけるやうにたしなめる小六の言葉に耳もかさないで

『とッとッと……、小六。化物も案外馬鹿にならねえせ』

『靜かにしろつてえこと、悟られて見ろ、それこそ俺逹までお陀佛ぢやねえか』

『でも、此の樣子ぢや、浪人はいやに落ついてまだ拔かねえし、化物は途方もねえ勢ひだし、此の分ぢや小六、どうやら當か外れさうだぜ』

『心配するな。化物だつて女が見てゐると思ふから一生懸命になるアな』

『そうか知らねえが危ねえ、あれ見ろ、火のやうになつてヂャン〳〵斬りつけて行きやがらア。あッ!いけねえ……あ!よかつた……』

『默て見てろと云ふに。俺にやちやんと浪人の手並が分つてるから驚かねえ、いくら斬りつけたつてあの通り、空ばかり斬つてたんぢや始まらねえ、あれぢやカの這入りどころがねえから直ぐ疲れちまア』

『なる程なア……。とッとッ!危ッ!危ねえ……うーンみじめなものだ。あれで化物もお陀佛か、可愛さうに、……』

『それ見ろ、これで俺逹の筋書通りだ。これからお前は直ぐ代官所へ訴へるんだ?』

『で小六、お前は一體どうするんだ』

『俺は此處見で張つてゐるよ。娘を連れて逃げてもあれぢや大變だから』

『逹ねえ、ぢやアあとを頼んだよ』

勘太は窃ッと足音を盜んで、十五六間も離れてから韋駄天のやうに駈け出した

『失敗つた!倉持殿!』

刀を引いて刑部の駈け寄つた時はもう旣に遲かつたが

『死なす筈ではなかつたが事茲に至れば是非もない、倉持殿許されよ』

刑部は靜かに立ち上ると始めて幾代を返り見た。

恐愕のあまり立すくんだまゝ、舌が絡み上つて物も云はれぬ幾代である。

『困つたことに相成り申した。暴漢と雖も相手は代官の儘では濟まされまい』

『申譯御座いませぬ。妾故に飛んだ御災難……』

『止むを得ぬ。此の上は男らしく自首するまで』

『ねゝッ!あの自首を』

『左樣、拙者も武士である限り、卑怯な振舞は出來申さぬ』

決然として云ふ刑部に、なんの未練もなさそうだ

黄昏
K生

夕の靄があたりを罩めた 私は門に立つて、暫くこの丘との間に挾まれた段々

畑の、風のそよぐ樣を眺め松原ヶ隔てゝさく〳〵と眺め松原を隔てゝさあさあ言ふ秋の潮のみつる音をきいた 空に雲も、靄も、空氣も光も一つになつてぱつとしてる、海に落ちて又日の光

がまだ高い空に照つて雲を紅に黄色に染つて居る 見てゐると雲も動く。動いてぐる〳〵と渦まいてゐる樣だ、そして其の渦をまいてゐる中に。暗い光の沈澱の渦をまいてゐる中に、

暗い沈澱といふ樣なものがだん〳〵底に溜つてきて重苦しい中に、暗い光の沈澱と云ふものが、だん〳〵底に溜つてきて重苦しい下界へ垂れ下つて來て、次第に丘や木立の影を呑み初める

耳鼻咽喉科
(入院應需 自炊ノ便アリ)
醫學博士 高柳博明
高柳醫院
平驛前 (電三三六)

新車のお知らせ
斷然!!! 乘心地良い!!!
三七年型フォード
入車いたしました。是非!御試乘の程を!
市内四丁目
スヾキタクシー
電二一七番

產科 午前宅診
婦人科 午後往診
花柳病科 入院應需
井坂醫院
平市田町(元合津醫院跡)
電話五五九番

皮膚科
泌尿器科 專門
性病科
診療時間 午前八時ヨリ午後九時マデ
平市田町
江尻醫院
醫學博士 江尻伊三郎
電話六九一
入院隨意

產科
婦人科
外科 院長 木村寅次郎
藥局 醫學博士 内木宗八
藥劑師 大岩俊雄
入院隨意 病室完備
平市新川町十九番地
木村病院
電話一六四番

酒は良し
氣分は滿點
おでん 呑兵衛
平市田町

はねつぎ
桑原柔道整骨院
平市公園下
電話六七四
神經痛ニオレンヂ
リウマチスパスタ

吸入用酸素 純度99%
度量衡 モノサシ マス ハカリ
計量器 体温器 寒暖計
關内藥局
電話四〇番

石炭値上御通知
磐城一等塊 一金五十錢也
磐城貳等塊 一金四十錢也
一、品川豆炭
大袋 五貫匁入 金八十五錢也
小袋 一貫匁入 金二十三錢也
一、コールタール(十五キロ入) 金九十五錢也
一俵ヨリ配逹致シマスカラ是非御注文下サイ
電話三七番
平驛前
阿部石炭店

内科一般
外科 (入院隨意)
内臟外科
花柳病科
平市六丁目(橋際)
木村外科醫院
電話三〇九

生花教授
池ノ坊
生花を懇切丁寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい。
平市四丁目和泉屋旅舘
須藤まつの

◎日本石油株式會社特約店
ライジングサン石油株式會社重油特約店
關彰商店平支店
電話六一番
本店 水戸線下館驛前 (電話五五・三三九番)
營業種目
石油、揮發油、輕油、重油、マシン油、モビール油、機械油類、胡麻油、植物油、カーボン、石炭、コークス、ストーブ
支店所在地
茨城縣 土浦町田宿 (電話六五三)
常磐線 關本驛前 (電話八二四)
常磐線 四倉驛前 (電話平潟五四)
常城線 久慈濱支店 (電話四八)
小名濱支店 (電話一三七番)
海上給油所 大津 平潟
及油槽所 江名濱

夜間診療
内科
胃腸病科
花柳病科
性病科
皮膚科
專門
(見習看護婦募集)
胃腸 性病科 松村醫院
(平市南町 電一〇七番)

靈効散
胃腸藥 を御試し下さい
或は下痢或は胃腸を害ねたりして三日も四日も便通がなくて頭痛を覺ゆる御方はキ、メの早い胃腸病。心臟病。腦。痔。適應藥
三年五年と患ふ慢性胃腸病が全快した人が澤山あります御望の方には見本藥一日分を差上げますから御遠慮なく御來局下さい。
平市古鍛冶町縣社ノ下
處方箋調劑所 阿康藥局
電話四四番 振替口座東京三〇〇六五番
定價 五十錢 八日分 壹圓 廿日分
御子樣方には飲み易い小兒盤効散があります。

品質第一
電話二六八番
平牛乳舍
平市・九品寺前

醫學士 吉田久雄
吉田眼科醫院
平市紺屋町 電話六八番

昨夜、獨房を打ち壞し 護送者二名脱走す

平刑務所空前の大事件

七日午後七時頃平刑務支所の獨房に收容されてゐた赤井村大倉生れ前科六犯鈴木伊助(三七)內郷村高坂字御殿生れ前科四犯草野儀一(三〇)の兩名が獨房の錠前を打ち壞して逃走、藻拔けの殼となつてゐるのを當直の門馬部長、松崎、渡邊兩看守らが發見大騷ぎとなり、直に平署に急報すると共に非常線を張つて脫走犯人の搜査に努めたが逮捕に至らず、今早朝から事件を重大視して駆けつけた宮城刑務所小橋川所長以下看守十名、福島、白河兩所看守五名應援の下に搜査を進めたが正午迄には逮捕に至らなかつた。平支所空前の重大事件として成行きを注視されてゐる

尙ほ草野はこの前平署に捕はれた際留置場前を掃除中被疑者の金を掠つ拂つたことのある圖太い男で常にキヨロ／＼署員の隙を見てゐたので警戒中のものだつたと云ふ

南條所長談

平刑務支所南條所長は兩名ともこの十日仙臺刑務所へ護送する豫定のものだつた、何とも世間をお騷がして申譯ないと言葉少なに語つてゐた

窃かに逃走を計劃? 兩獨房の錠前目茶々々

犯人鈴木並に草野は同所南北の獨房に收容されてゐた草野の獨房はハメ板が打ち毀された上錠前も目茶々々に破壞され、一方鈴木の獨房はたゞ錠前だけが破壞されてゐる點から見て、先づ草野が脫走した上鈴木に手助けしたものらしく、兩名は數日前から牒し合せて機をねらつてゐたものと見られてゐる

ので明後十日身柄を仙臺刑務所に護送する豫定にあつたもの

犯行は僅か卅分 高塀を乗り越ゑて 鼠坂を下る

きのふ午後三時過ぎに夕食を濟ませ、同六時半頃巡視の際は何等異狀を見なかつた點から推して脫走はそれから僅か三十分後の同七時迄の間に行はれたものらしく、附近の畑地に殘された足跡などにより刑務所ではその逃走經路について次のやうな推定を下してゐる

兩名は先づ裁判所裏手の高塀を飛び越ね、更に塀にそふて第二小學校の裏を刑務所畑に拔けて鼠坂を下つた

この點迄は判つてゐるが其後は道路の地盤もかたいので足跡もなく杳として其の行方が判らない、尙服裝は草野は白地の單衣、鈴木の方は青色の獄衣を纏つてゐるが何せ前科數犯のしたたか者だけに逸早く變裝したものではないかと見てゐる

鈴木は軍服泥 草野は自轉車專門 脫走二人男の素性

犯人草野は去月十七日札幌刑務所を出獄すると直ぐ鄕里內郷村に舞ひ戾つたが懲りる性もなく湯本、內郷、平、を股にかけて自轉車專門の盜みを働き一昨六日平區から懲役三年の判決を受けたもの、又鈴木は去月二十三日午後二時頃赤井村赤井海野一郎方に忍び込んで同人所有步兵上等兵の軍服を盜み、去る一日應召兵を裝ふて餞別詐欺を働かんとした處を平署に捕はれこれ亦昨七日平區から懲役三年を言渡され、兩名とも服罪したもの

土木組合に暗影 平工區縣聯携を脫退か

縣土木建築請負組合の平工區は過般須賀川町に開かれた縣下大會以來幹部の割當て其他の問題から組合の措置に關し組合との間に大なる溝渠を生じ組合機構の改革に就て爾來或種の內燃を續けて來たが、其後何等之の間の緩和策が行はれず、平工區側の神經が益々尖鋭化するに至り、最近では現幹部の考慮を促す意味に於て連袂脫退をもし兼ねまじき形勢となり、寄々研究を重ねつつあるらしく、仄聞する處によれば、此際漫然たる脫退も無意味なので寧ろ次大會に於て完膚無き迄現狀打破に邁進した上去就を決しやうでは無いかとの議論も行はれてゐるものの如くで和、戰何れに出るか一波瀾は免れ難い雲行きにある

壯丁合格者 入營期日決る

平市に於ける今年度壯丁合格者の兵科、入營期日左の如く決定

(明年一月十日)(步兵)鈴木春治 高木益利 根本善文 須藤貞一 櫻山正平 吉田儀雄 高橋正男 秋山正一 鈴木志郎 大橋義房 大塚正治 渡邊登 寺田久 (野砲)金土正明 (山砲)白土亨 岩崎庄三 (工兵)角田留男 (輜重)箭內重利

(九月一日)(步兵)阿部健治

(十二月一日)(步兵)櫻井淸一

(七月十日)(飛行)吉田仲三

(六月十日)(飛行)鈴木守

(十二月十日)(步兵)阿部重雄 海老根忠雄 神谷忠男 金子元彦 高田五郎 丹野孝一 鈴木實 齋藤武雄 作山友則 鈴木喜平 蒔葉貞一 加藤武久 (山砲)根本長壽 川角富雄

(三月一日)(山砲)吉田正夫 舟山淸三 會川進 佐藤直治 松原行雄 大崎隆弘 佐々木正巳 松田榮 長谷川留三郎 川上茂雄 中井淸登 篠崎善平 金成榮一 桝下長男 吉田政雄 (山砲)久保木忠夫 舟山政元 (鐵道)吉田定美 横田尙友

(六月三十日)(水兵)鈴木貞三 蓬田光男 古關登 鈴木信光

(三月一日) 部隊未定—

(野砲)矢吹秀雄、酒井貞良 (補充兵六十六名)

角力日延べ 十二、三日に變更

來る十一、十二兩日市內新川南方第五小學校埋立地で興行の筈であつた本縣聯合保護至道會並に大日本敎化會主催地元日刊四新聞社後援の横綱武藏山一行大角力は都合により一日を繰り下げ十二、三の兩日に變更された

磐城柔道昇段審査 來る十七日双中道場で

磐城柔道有段者會では來る十七日の日曜をトし午前十時から双葉中學校に於て本年度の初段、二段昇段審査會を開くが受審者は初段へ五十名、二段へ三十名、合計八十名位の內十名位を除き結局六十名前後の昇段あるものと豫想されてゐる。因に同會は去る昭和二年創立以來諸橋久太郎氏を會長に逐年健全なる發達を遂げ今日迄の受段者三百名に上り、今年の如きは時局を反映して一層發展の兆を示してゐる

「濫れて微笑む」 故きを—

E

卅年前の地方紙社會記事

(酒井國手の鎌田遊廓設置必要論。承前)

—君の言の如く遊治郞偶紳士は花柳病傳播の媒介者たる事は多少事實に近けれども其根源は主として淫賣婦にあらざるはなし。之公娼無き平町の現狀に見て明かなりとす。然り而して彼ら淫賣婦にして一度花柳病に感染せんか、非常なる苦痛を自覺せざる限りは何れも隱匿して決して醫治を受くるなく多くは賣藥の姑息的治療をなすに過ぎず、或は偶々醫療を乞ふものあるも其加療中漫然淫賣を持續しつつあるを常とす、之に反し公娼は每週一回必ず定期の身體檢査を施行し若し有毒者あらんか直に驅梅院に收容し治療を加へ、治療に至らざるものは決して退院を許さず、故に彼等の多くは健康を保持すること密淫者の企て及ぶ處にあらず、偶々花柳病に感染するや悉く遊客よりするも遊客は密淫者より感染し來るものなれば、其傳染は公娼の梅毒其他の花柳病感染は間接に密淫者より接觸せしものなりと云ふを憚らず、云々

次に北鄕醫師の揭げた吉原洲崎兩遊廓に於ける娼妓の花柳病統計が罪に有毒患者の多數に驚いて割合に健康者の多い點を閑却した杜還粗漏を指摘し之に反し密淫者は已に示す如く百人中八十九人の最多數を占め居る事を思はゞ誰か慄然として密淫者の危險を絕叫せざるものあらんや

曰く平町に公娼設置せば巳に存在する花柳病蔓延の火焰に一瑞を添ふるのみ、火焰は之に因て益々盛ならんと、何ぞ偏見謬想の甚しきや、然れども余は斷言す公娼を設置すると雖も全然密いん者を驅除し花柳病を撲滅し得ざる事は恰も刑法ありて犯罪者盡きざるが如く宗敎家ありとも不道德家多きが如く到底近き將來否遠き來將と雖も黃河の淸きを望むと一般ならん

平町は近來鑛業の經營頗る熾盛を極め地方の會社及び礦山に從事する勞働者其他を合して約一萬六千六百九十人ありて其の需要は凡て平町に仰げり、故に平町の販股は日に月に繁盛に赴き他に多く其比を見ず、從つて風紀の頽廢花柳病の猖獗は自然の結果なり、之れ平町に公娼設置の必要ある所以なり、云々

論鋒異に當るべからざるものがある。江南——ならぬ市內の南方アマゾン流域一帶の當業者たるもの、之の文辭に果して如何の感かある……だ

鬪病の秋悲し

早曉の市役所玄關へ 天刑病の兄弟が愁訴

注射藥を呉れて北へ向かす

形影凋落の身を秋に縋つて一食一飯と行く手の路銀を哀願し出るさすらひ人は市の社會課にとつて可なりのニガ手であるが今八日も早曉五時半、玄關を叩く纖細い聲に早起きの使丁さんを驚かした二人連れがある。宿直員の問ひに語り出した彼らの素性=大阪市上成區大道町八五田住賀(二七)同武(一九)の兄弟で呪はしい天刑病者として鄕里を追はれ、癩療院に入る心算で東京へ出たが見込み通りに收容して貰へず、已むなく病軀に鞭うつて當市迄辿りついたもの

市としては勿論收容の途も無く差當り注射藥ヘロイン若干と途中壞してしまつたと云ふ注射器とを買ひ與へ腹癒へをさせた上北へ向けて出發させたが之の世にも哀れな兄弟は之れから沿道役場警察の情に縋り乍ら青森縣下の療養所さして鬪病の旅を續ける考へらしいと

縣道編入は困難でも 依然存續 鎌田橋は

地元で維持策に腐心

平—神谷間を結ぶ新鎌田橋『平神橋』と名づけ、いよ／＼近く竣功するのでこれに伴ふ廢道迂回線の縣道編入如何が注目されて來た既報の如く田圃中を國道に並行する新川町—鎌田區間の新道を加へた新方針によつて極力運動を續けてはゐるが實現までには尙相當の日子を要するらしいので鎌田區民の全神經は最近寧ろ現鎌田橋の存續如何に注がれてゐる、これに關し右の運動を續けてゐる同町振興會側では

縣道編入が困難でも現鎌田橋の存續に關しては縣當局にも極力陳情してあるので、新橋完成後直に撤回されるやうなことはないだらう

と語つて居るが、今後の維持策もあるので近く振興會側から何等かの運動に出づるものと見られてゐる

中野伍長戰死(神谷出身)

神谷村字鹽亡惣吉氏四男陸軍步兵伍長中野四郎(三〇)氏は上海戰線で奮戰中去月二十日壯烈な戰死を遂げた旨實家に通知あつた

四郎氏は平商業學校卒、台北、北警察署巡査部長を勤務中今回の事變に應召したもの

台灣の留守宅には妻イク(二六)さんと長男惣一(一)ちやんが居り、神谷の實家は二男次郎氏が農業を營んでゐる、母親テフさんは語る

巡査を志願してから四年になります、立派にお國のために働いて倖もさぞ本望でせう

『正義のため 奮戰す』 根本水兵の便り

既報、上海戰線で名譽の戰傷を負ふた永戶村出身根本鐵長(五二)氏長男三等水兵根本久君(二二)は最近陣中から左の如き便りを寄せてゐた

——鄕里の皆々樣には毎日私等の武運長久をた祈り下されて居るとのこと深く感謝致します、私も果敢なる勇士の一員として選ばれて最前線に立つて正義のため奮戰することになりました (後略)

便所でお產

市內番匠町四〇近江チトセ(三二)さんは今八日午前四時便所內で產氣づき、女兒を分娩したが、嬰兒は便壺に落ちて窒死

內郷に 脫走犯人現る

別項、刑務所脫走犯人は八日午後三時に至るも捕はれない、然し昨夜九時頃內鄕村白水農某方に忍び入り衣類を盜んで着替えした上現金二、三十圓を盜んだ事實が判つたので犯人の搜査に當つてゐる平署では全力をあげてその足どり搜査に努めてゐる

九日 (小名濱潮候驗潮所)

滿潮 前七、一五 後五、四五 干潮 前〇、三五 後〇、一〇

至急募集

一、少年工場員

小學卒業程度にして市內居住者、希望者來談あれ

磐城新聞社

新十月九日 土曜 己巳 友引 危 柳宿 舊九月六日

暦判定廳舍 東京市本鄕區湯島四丁目 高島易斷總本部 神誠館

▲一白 惱みにふさがれ兎角忍ぶ時に成りがたき日▲二黑 山氣を起す時は却て失敗を招ぐけんじつを守れ▲三碧 公平の態度を以て英氣を奮ひ開たくに努めよ▲四綠 福運を獲得すべき日他の引立ありて功多し▲五黃 人のせんどうに乘り易き日温和に身を保つべし▲六白 慈悲善根は人の爲ならず報は一家に及ばん▲七赤 家道次第にのび行く日迷心は失敗に導かん▲八白 ふちん曲折の多き日油斷大敵用心堅固が第一▲九紫 がよくにはせて名をけがさざるやう注意すべし

廣告

東西會社の新商品 石鹼 齒刷子 齒磨 連鎖店にあり

※良い電球は眼の護り※

國產 トウランプ

大和田醫院 電話一七〇番

磐城の御みやげ品

名物 靈峰羊羹(みやま) 金十錢

姉妹品 柿羊羹。のり羊羹。沼ノ內辨天羊羹。

御旅のお出入には好個のお土產品です。小賣御希望の方お申越下さい。

製造發賣元 小川鄕驛前 平屋賣店

ミシン洋裁生徒募集

◎入學隨時◎ミシン無料貸與◎

◎材料不要◎月謝破格低廉◎

◎本科◎高等科◎刺繡科◎

平驛前(市役所通り) シンガー洋裁女學院

◎入學案內規則書無代進呈◎

◎寄宿、自炊、見習仕込ミモアリ◎

軍服・團服

熟練工が來ました 何卒御用命賜り度

平市南町七十一 高野洋服店 電話(呼)四八五番

應召軍人 防寒用防彈チヨツキ 純眞綿製品

毛糸製品ヨリ安價ニシテ風ヲ通サズ保溫最モ良ク最適品ヲ御勸メ致シマス。

平市二丁目 山家メリヤス店 電話六〇五番